

静岡の中学生が作ったヒロシマへの想い

修学旅行で訪れた広島で戦争の悲惨さを学んだ静岡県沼津市の中学生たちが、平和への思いを歌に託し、その歌を聴いた豊能町東ときわ台のピアノリスト、山田紗耶加さん(50)が、「もっと多くの人に聴いてほしい」と、本格的な合唱曲に編曲した。山田さんが伴奏で参加する同町の混声合唱団「ザ・ブルーム」が19日午後7時から、大阪市天王寺区の四天王寺で開かれる聖徳太子演奏会で、初めて披露する。

広がれ 平和うた

題名は「想いを風に」。

山田さんは、広島県の爆心地近くで被爆したピアノを使い、各地で演奏会を開いており、昨年12月、平和学習の一環として沼津市立第五

中学校に招かれた。ピアノコンサートを開いた後、3年生の生徒たちがお礼として歌ってくれたのが、この歌だった。

「すべての武器を葬って 私たちは願う そうみんなの手をつなぎあおう」

こえて 私たちは歌う つか つか みんなが幸せになれるその時まで

2004年、修学旅行で広島に行き、原爆のむごさや戦争の悲惨さを知った当時の3年生が、「学ぶだけでなく、自分たちも何か発信しよう」と声を上げた。作詞を塩谷知也さん(17)が手がけ、作曲はピアノが弾ける石川裕崇さんが担当した。

卒業後も、後輩たちが卒業式などで歌い継いだ。曲を聴いた山田さんは「命を大切にしなければいけないという生徒の思いが伝わり、感激で涙があふれた」と言う。学校と話し合い、すぐに編曲に取り組み、混声3部の本格的な合唱用の

曲に仕立て直した。

ザ・ブルームは豊能町の小学校の保護者で作ったコーラスグループが母体で、現在30歳代から60歳代の35人が参加。3月から練習を始めており、本番に向けて張り切っているという。

山田さんは「戦争を知らない子どもたちが懸命に考え、取り組んだ曲。経験した人も知らない人も、ぜひ聴いてほしい」と言い、現在、高校3年生の塩谷さんは「戦争や貧しさに苦しむ人たちに、幸せになってもraithたいというメッセージを伝えたいと思った。多くの方が歌ってくれることで、題名のように想いが風のように渡っていけば」と話している。

合唱用編曲 19日披露



「被爆ピアノ」が縁 豊能の山田さん ▶

「生徒たちの思いのこもった素晴らしい曲を広めていきたい」と話す山田さん